
もう一つの自分と世界

天秤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もっ一つの自分と世界

【Nコード】

N5042BA

【作者名】

天秤

【あらすじ】

超能力

これが当たり前のよう存在し、当たり前のように行使される世界。

白峰晃は最近、謎めいてどこか暗い夢を見る。

黒い、とても黒い女の人とその白い口をあけて晃に喋りかけてくる。ただそれだけの誰でも観るかもしれない夢。

入学式の朝に見たその夢は、世界を変える力になる!?

プロローグ【始まりと終わりの話】

超能力

これが広く公に知られることになったのは1990年のある出来事のせいであろう。

それはエジソン、ガリレオに次ぐ来台の天才、天貝創士のある理論の証明によって示された。

その理論と言うのが「人体心話力覚醒理論」つまり「脳との対話をし自身の能力を知る」というなんとも馬鹿らしい、しかしどこか魅力のある理論だった。

これが発表された当初、物理学、心理学、脳科学、果ては宇宙学の各学会から、天貝は馬鹿にされ誹謗中傷の的になった。「そんな馬鹿げた理論…実現する訳がないだろう」「君、どうかしているんじゃないのかね」と。

しかし、このような天貝に対する避難の目、誹謗の言葉も理論発表の二年後からピタリと止んだ。

天貝創士が超能力を使いこなしているのだから…

このことから、各学会でも理論を認めざるを得なかった。

理論の確実性を認められ、この頃から国々も超能力を意識し始めた政策を立てていった。つまりどれだけ自国が超能力者という存在を保持できるか…ということだ。

これに最も早く手を付けたのがアメリカ、次に中国、そして日本だ。

各国、理論を独自に研究調査していく中である者が抜きでた政策を打ち出した。

国ではない……天貝本人だった。

天貝は教育機関での大規模な臨床実験のため日本に資金援助を要請した。無論、日本はこれを了承し急ピッチで一大臨床実験場の建設に乗り出す。

そして、1998年に完成した一大臨床実験場、通称「通草ノ総合学園」は30年たった今でも超能力の研究調査を続けている。

これが超能力をめぐる、ほんの始まりのお話。
これは、天才の天貝の死後のお話。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5042ba/>

もう一つの自分と世界

2012年1月13日23時53分発行